

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月30日(水)

### 《神と共に永遠に生きる》

おはようございます。

今日は第一朗読に目が留まりましたので、黙想したことを皆さんと分かち合いたいと思います。

第一朗読は使徒ヨハネの手紙(ヨハネ2・12-17)でしたが、最後に書かれている箇所に注目してください。『世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。』この箇所を読んで、私は思い出したことがあります。2年ほど前のことですが、ある司祭が記事として載せた文章を読んで、私は結構感銘を受けたのでその内容を紹介します。

その記事を書いた司祭は画家でもあります。彼はアメリカのある場所でカトリック的な絵の展示会があると聞き、出掛けて行きました。彼はその展示会でアンジェラという画家に出会います。アンジェラはその展示会を企画し、中心となって活動している女性でした。しかし事情を聞いてみると、彼女は乳がんの末期で、体のほぼ全体にがんが広がっていて、医学的にはとても動きにくい状態だったのだそうです。しかし彼女はいつも笑顔で、一生懸命に情熱を持って活動に取り組んでおり、この司祭が「本当に彼女はがんと闘っている人でしょうか」と、隣人に聞いたほどでした。詳しく聞いてみると、彼女は大学でも学生の指導に当たっているし、一人の妻として、二人の子供の母親として、家庭のこともしっかりとこなしているし、また、自分がホスピスを受ける立場なのに、逆に自分がホスピスを与え、ボランティア活動をしているそうです。また、月に一度は抗がん剤治療を受けるために病院に行くとのことでした。

この司祭はアンジェラに関心を持ち、病院に一緒に行ってみました。抗がん剤の治療なのに、彼女は何か栄養剤でも受けているような朗らかな態度で、医療担当者に笑顔で話しかけながら、冗談を言って笑わせたりしています。一時間以上もの長い間、本当はずいぶん辛い治療のはずなのに、笑顔を失わないで、とりまく人々を笑顔に誘う姿まで見せていました。ずっと同行していた司祭は、司祭として少し自分が恥ずかしかったそうです。彼女はどのようにしてこの状況の中で、笑顔を絶やさず、難しさを乗り越えているのか。その力はどこから来るのか。司祭である彼にもよく分からなかったそうです。そこで、彼は勇気を出して、「アンジェラ、どうしたらあなたのようにこのような状況の中で、感謝の祈りが自然と出来るのでしょうか」と尋ねました。

この質問にアンジェラは簡単に答えました。もし私にこのような苦痛や試練がなかったら、この世の中で何が一番大事で、何が一番美しいのか、イエス様の御心を量ることが出来たでしょうか。私はそういう意味で感謝しています。少なくとも私はこの世の中で何が一番大切なのかを知りました。主治医の話では、私の命は上手くいけば3ヶ月、もっと上手くいけばあと6ヶ月くらいは持つそうです。しかし私にとって、残っている人生の時間の長さはたいして意味がありません。神様がくださった“今日”を最善をつくして、喜びを感じながら、希望を持ちながら過ごす。それこそ、私にとって意味があるのです。」という内容だったそうです。

司祭は彼女の信仰について、次のように感想を述べていました。「彼女にとって神様は病気を慰めて

くださる、薬をくださる、というような存在ではないのだと思います。彼女にとっては、今ここで、共に息をして生きておられるインマヌエルの神様なのでしょう」と。

私達は「信仰、信仰」と言いながら、いつも不安に陥ったり、希望を失ったり、前が見えない生活ばかりしています。結局この画家司祭が結論として出したように、今、ここで私と共に生きておられる神様を意識することができる一日なら、私達も幸せなのだと思います。そして、何も恐れずに挑戦する勇気も与えられるのではないのでしょうか。

今日の第一朗読は、私達が『永遠に生き続ける』ことを述べていました。私達は確かに永遠に生き続けるはずです。なぜなら、神様の御心をいつも意識しているのですから。大事なことは結局、神様の御心を意識することでしょう。ただ、御心を行おうとしても簡単にできるものではありません。行おうとして失敗することはよくあることです。御心を行おうとすること、また、御心を行いたいと思う気持ち、それが何よりも私達にとって大事なことなのではないのでしょうか。もし、そのような気持ちを私達が持ち続けることが出来るならば、失敗があっても、間違いがあっても、それらは問題にはならないと思います。私達が今ここで、喜びながら神様と共に生きていると思う心で毎日を過ごすことが出来れば、本当に幸せだと思います。

さあ、福音(ルカ 2・36-40)のほうでは、イエス様はご自分の故郷ガリラヤのナザレで、『たくましく育ち、知恵に満ち、神様の恵みに包まれていた』とあります。神でありながらも、完全に人間そのものの生き方をなさってくださった、神様の御心が現れている箇所です。私達人間と同じ痛み、同じ感情、全てのことを同じく体験をして、私達人間に救いの道を示してくださった、神様のへりくだった御心であることを共に味わってみましょう。

ありがとうございました。